

「学生による授業評価」結果の授業属性ごとの統計的分析による考察
A Statistical Study on a Result of “Classes Evaluation by Students” Classified
by Class Attributes

西山茂
Shigeru Nishiyama

概要

筆者による論文“「学生による授業評価」結果の統計的分析による考察“では、「学生による授業評価アンケート」の評価点と学生コメントの全体的傾向を明らかにした。この論文の分析では、次のことが判明した。a) 評価点は授業規模（履修者数）が減少すると低くなる、b) 授業を批判的に評価するコメントが、授業を好意的に評価するあるいは中間的に評価するコメントより多い、c) 批判的なコメントが増加すると評価点が低くなる傾向がある。

上記論文においては、学生による評価結果を正しく理解するための全体的な傾向を明らかにしたが、同時に、評価点と履修生数（アンケート回答者数）、授業の種類等の授業属性との関係など、さらに詳細な分析が必要であることも判明した。

本論文では、上記論文では触れることができなかった、授業の様々な属性と評価点との関係の分析結果を述べる。分析の結果、次のことが判明した。

- (1) 言語の授業は他の授業とは異なる特性を示す
- (2) 言語、回答者人数（ほぼ、「履修者人数－欠席者人数」）35人超の授業、全体平均点以下の授業を除き、回答者数が多くなると、評価点が低下する傾向がある。特に、全体評価点平均を超える授業は他に比べて回答者人数と評価点が強い相関を示す。

キーワード

学生、授業評価、評価、統計分析、アンケート

1. はじめに

平成 19 文科令 22 により、大学の授業内容及び授業方法の改善を図るための研究及び研修を組織的に実施することが大学に義務付けられた。この活動を FD (Faculty Development) と呼ぶ。新潟国際情報大学（以下、本学）ではこれに対応して、2010 年度より前後期各 1 回ずつ計 2 回の学生に対するアンケートによる授業評価と年 1 回の全教員に対する FD 研修会を行ってきた。前者を「学生による授業評価アンケート」と称している。

アンケート結果は、授業ごとに集計分析して、全対象授業の結果を学内（学生、教職員）に開示している。しかし、他の授業との相対的評価は、各アンケート項目の全学・学部平均点と個々の教員が担当した授業の評価点の比較程度しか示されず、教員各自の担当した授業がどの位置にいるのかはあまり明確ではない。また、アンケートの際に寄せられる学生か

らのコメントは、個人情報保護の観点などから、担当教員にのみ提示され、他の教員の参考に供されることはない。

筆者は、2016 年度、2017 年度と FD 委員会の委員長を務め、詳細な「学生による授業評価アンケート」のデータに接することができた。そこで、2017 年度前期の「学生による授業評価アンケート」結果を分析対象として、「学生による授業評価アンケート」結果の全体的傾向、学生のコメントの傾向を統計的分析により示し、今後の本学の FD 活動及び授業改善の一助とした [1]。

しかし、上記の筆者の論文では、評価結果を正しく理解するための評価の全体的な傾向を明らかにしたが、同時に、評価点と履修生数（厳密にはアンケート回答者数）、授業の種類等の授業属性との関係など、さらに詳細な分析が必要であることも判明した。

本論文では、この点に鑑み、上記論文では触れることができなかった、履修学生の人数（回答者学生数）、授業の種類（座学、語学、演習等）、など授業の属性と評価点との関係の分析結果を述べる。

2. 新潟国際情報大学の「学生による授業評価」

2. 1 経緯

本学の「学生による授業評価」の経緯は、参考文献 [2] に詳しいが、以下に概略を記す。

本学では 2004 年度から「学生による授業評価」を開始した。当初はアンケートを紙ベースで実施したが、2010 年に FD (Faculty Development) 委員会の発足に伴って、電子化し、アンケートを Web ページに掲載し、PC や携帯電話（当時はいわゆるガラケー (Feature Phone) 主体）を利用して学生が授業外でアンケートに回答する方式に変更した。しかし、この方法ではアンケート回答への強制性が薄く、回答し忘れる学生もいたため、アンケート回収率は必ずしも満足のいくものではなかった。

そこで、アンケートの回収率を向上させるため、2013 年度からアンケートを紙ベースに変更し、授業内で回答するようにした。さらに、2017 年度からはアンケートの質問項目に○印を付ける質問・回答一体化方式から、質問と回答を切り離し、回答をマークシートにマークする方式に変更した。これにより集計処理の効率化、回答の分析の容易化を図った。

2. 2 2017 年度前期の「学生による授業評価」の概要

本節の内容も参考文献 [1] に詳しいが、本論文を読むにあたって必要となる事項を以下で簡略に述べる。

2. 2. 1 「学生による授業評価アンケート」実施方法の概要

図 2.1 に本学の「学生による授業評価アンケート」の実施方法の概要を示す。

アンケートを実施する時期は概ね授業の 10～11 回目であり、教員のコメント入力 は 13 回

あるいは14回目で行っている。
評価結果の公開は次の2つの方法をとっている。

- A: 全学と各学部の各質問項目の平均値のみを一般公開 [3]
- B: 各教科の結果と教員コメントを学内にのみ開示

2.2.2 本学が使用しているアンケート項目

表2.1に本学が「学生による授業評価」に用いている質問項目を示す。

質問の項番1と2はシラバスの記述法及びシラバスとの関連を問うものであり、質問3から9は授業の進め方に関する質問である。各項目は1～5の5段階で評価させる。

表 2. 1 「学生による授業評価アンケート」の質問項目

| 質問番号 | 質問 |
|------|--|
| 1 | 講義概要（シラバス）の授業テーマや目的はわかりやすく書かれていましたか |
| 2 | 講義概要と授業の内容は合っていましたか |
| 3 | 授業の中で授業のテーマや目的が説明されましたか |
| 4 | 授業は内容がよく整理されて説明されていきましたか |
| 5 | 教員は授業の内容が理解できるように考えながら話をしていたと思いますか（説明の速さ、声の大きさ、明瞭さなど） |
| 6 | 授業で使用されたテキストや教材、パワーポイント、DVD等の資料や黒板、白板などの板書は見やすく作成あるいは記述されていきましたか |
| 7 | 質問やレポートなどに対して教員は丁寧に対応しましたか |
| 8 | 私語や遅刻、早退に対する教員の対処は納得のいくものでしたか |
| 9 | 教員は授業に熱心に取り組んでいたと思いますか |
| 10 | この授業を5点満点で評価してください（最も良い5点、最も悪い1点） |

質問10は授業の総合的な観点からの授業評価を問うものであり、授業全体を1～5の5段階で評価させる。

本学のアンケートの質問項目に殊更に特徴的なものはないが、事前に学生に授業の目的や内容を知らせるシラバスの適切さ（1、2）、授業の進め方や取り組みの良否（3～9）、授業の総合的な評価を問う（10）内容であり、学生に授業の評価をさせるために過不足のない項目である。

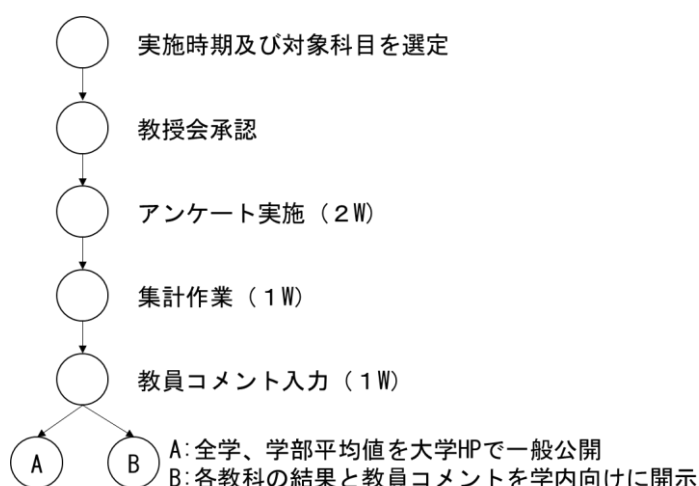


図 2. 1 新潟国際情報大学の「学生による授業評価アンケート」実施手順

2. 3 2017 年度前期の「学生による授業評価アンケート」の概要

本節では、2017 年度前期の「学生による授業評価アンケート」の結果を概説する。

授業評価に用いる質問は前節で述べたように 10 項目あるが、それぞれの質問の分析結果を述べるには紙面が限られているため、本論文でも、先に上梓した筆者による論文と同様に学生が授業全体を評価していると期待される質問 10 に対しての分析のみを述べる。他の質問項目の分析については、続く論文に委ねることとしたい。

2. 3. 1 質問 10 の全体的な傾向

図 2.2 に、区間の幅を 0.25 としたときの全学、国際学部、情報文化学部の授業評価の評価点のヒストグラムを示す。

標本数は、全学 210、国際学部 109、情報文化学部 101 である。国際学部と情報文化学部の標本数はほぼ同数であるので、図 2.2 の分布の形の違いは、それぞれの学部の特性を表していると考えられる。

図 2.2 から、次のことが言える。

①国際学部は、4.5 点以上の高評価の授業が多い反面、低評価の授業も多くはないが存在している（いわば Long Tail である）。

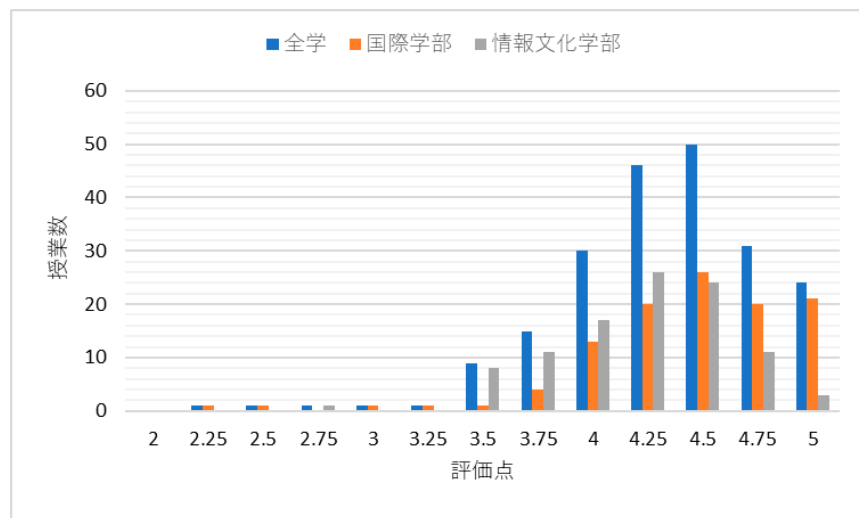


図 2.2 評価点の分布

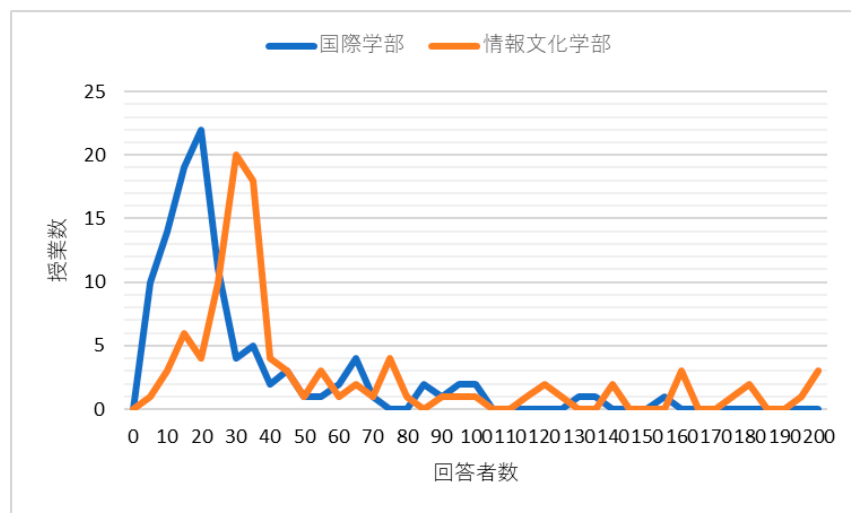


図 2.3 授業ごとのアンケート回答者数の分布

②情報文化学部は、4.5 超～5 点以下の評価の授業はそれほど多くない（5 点の授業は 0 件。国際学部は 8 件）が、4～4.5 点の付近に集中している。また、低評価の授業は 1 件である。

図 2.3 は区間幅を 5 としたときの国際学部と情報文化学部の回答者数（ほぼアンケート実施時に授業を受けていた学生数）のヒストグラムを示したものである。横軸は回答者数、縦軸は授業数を表している。また、傾向を見やすくするためヒストグラムを折れ線グラフで表している。

図 2.3 から国際学部の方が回答者数が少ない授業が多いことがわかる。次節以降で述べることを考え合わせると、この分布の違いが、図 2.2 の評価点の分布の違いを説明していると考えてよい。

2. 3. 2 回答者数と評価点の関係

図 2.4 は、縦軸に評価点を横軸に回答者数をとった散布図である。ひし形の点が各回答を示し、四角の点及び直線は回帰分析から得られる予測値である。このグラフから、回答者数が多くなると評価点が下がる傾向が見られる（決定係数 0.12、相関係数 0.35）。図 2.5 は回答者数 50 人以下の授業に対する同様な散布図である。この場合でも回答者数が多くなると評価点が低下する傾向が見られる（決定係数 0.097、相関係数 0.31）。

さらに、表 2.2 は回答者数を 50 人以下、50 人超 100 人以下、100 人超に層別化してそれぞれの層の評価点の平均値等を示したものである。表から明らかなように、ここでも回答者数が大きくなる（授業の履修収容人数が大きくなる）と評価点が下がる傾向がある。

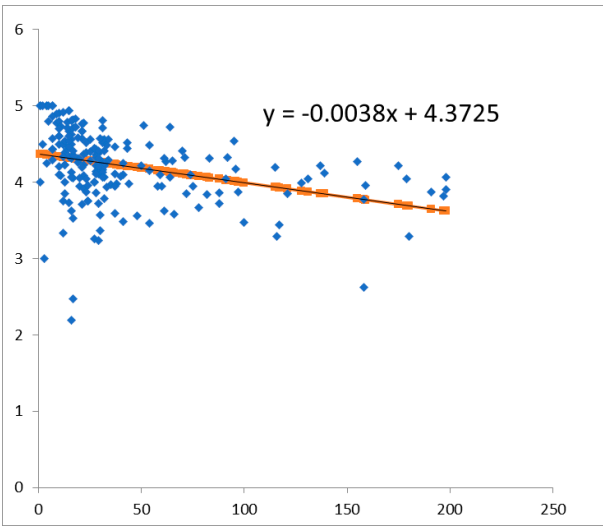


図 2.4 回答者数と評価点（全体）

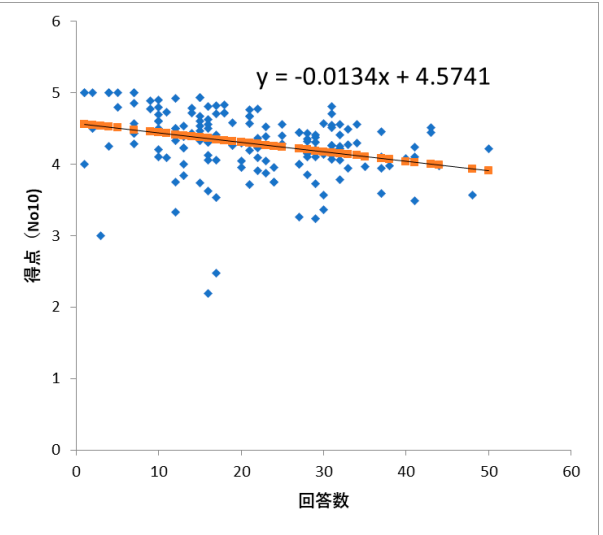


図 2.5 回答者数と評価点（回答者数 50 人以下）

表 2. 2 層別回答者数の平均評価点

| | 50人以下 | 50～100人 | 100人超 |
|------|-------|---------|-------|
| クラス数 | 161 | 30 | 19 |
| 平均 | 4.29 | 4.07 | 3.84 |
| メジアン | 4.32 | 4.08 | 3.96 |
| 標準偏差 | 0.46 | 0.34 | 0.40 |
| 最大 | 5.00 | 4.75 | 4.26 |
| 最小 | 2.19 | 3.46 | 2.63 |

興味深いことは、高評価が期待される回答者数 50 人以下の層に全体の最低点の評価をされた授業が含まれていることである。この授業の回答の分布を示したものが、図 2.6 である。

一方、図 2.7 は 100 超の回答者の授業の最低点となった授業の回答者分布である。

アンケートの一般的傾向として、回答者は中間値を付ける傾向があるといわれている。図 2.6 の授業の回答者数は 16 人であるが、中間の 3 点を付けた回答者が 6 名いる。最高点 5 を付けた回答者も 1 名いる。しかし、2 点以下の低い点数を付けた回答者が 9 名おり、評価点の平均を引き下げている。

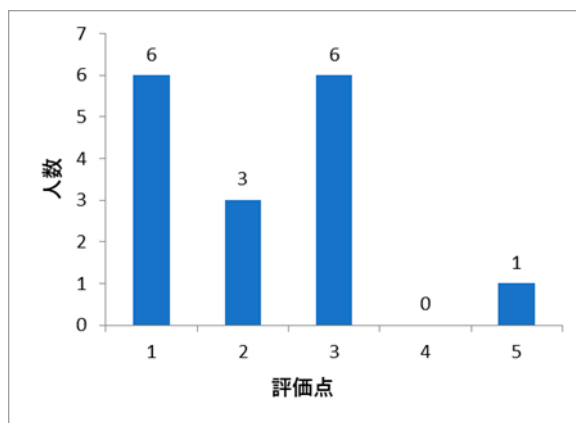


図 2.6 最低評価点の授業の回答分布

他方、図 2.7 の回答者数は 158 名で、中間点超の 4 以上を付けた回答者は 34 名、2 以下を付けたものは 73 名である。高い評価を付ける学生がかなりいるため、評価が中間値 3 を大きく割り込むことがなかった。

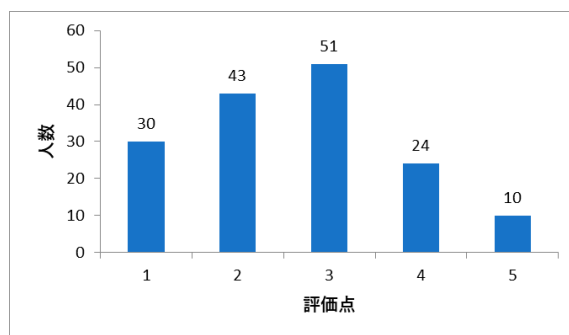


図 2.7 回答者が多数の場合の低評価授業の回答者分布

このように回答者数の少ない授業では平均的な評価点が極端な点に左右される（良くも悪くも）ことが多いと考えられる。一方、大人数の授業では、低い評価は中間の評価、良い評価に相殺されて、結果的にあまり極端に低い点数になりにくいのであろうと推測される。

3. 授業属性ごとの分析

言語の授業及び演習の授業は、履修者数が少なく、また、授業形態も教員の話聞いて理解するいわゆる座学と異なり、繰り返し練習によってスキルを向上させるものが多い。この点に着目して、言語とその他、演習とその他 表 3.1 言語系とそれ以外の授業の属性比較 の関係を分析する。

3. 1 言語の授業とそれ以外の授業の比較

表 3.1 は言語系の授業（言語）とそれ以外の授業（除言語）の標本数、回答数、評価点の比較を示している。両グループの授業は回答者数で大きな違いがあることがわかる。

| 項目 | | 言語 | 除言語 |
|-----|----|------|------|
| 標本数 | | 107 | 103 |
| 回答数 | 平均 | 18.4 | 64.1 |
| | 最大 | 33 | 198 |
| | 最小 | 1 | 2 |
| 評価点 | 平均 | 4.32 | 4.09 |
| | 最大 | 5 | 5 |
| | 最小 | 2.19 | 2.63 |

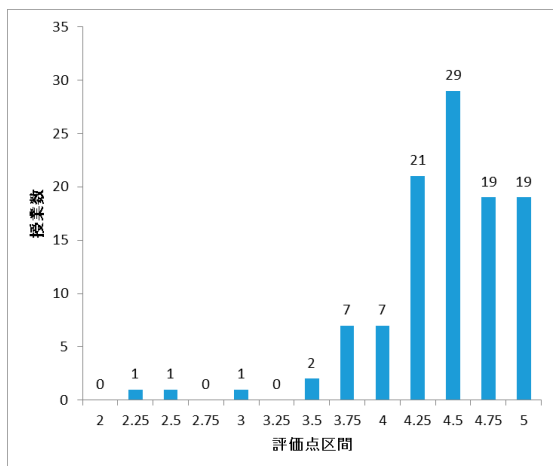


図 3.1 言語系授業の評価点と授業数の分布図

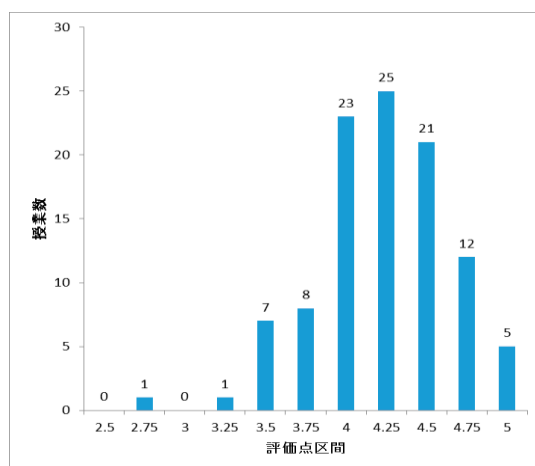


図 3.2 言語以外の授業の評価点と授業数の分布図

図 3.1 は言語系の授業の評価点と授業数のヒストグラムを、図 3.2 は言語以外の授業の評価点と授業数のヒストグラムを示す。なお、図 3.1 では評価点 2 点以下、図 3.2 では評価点 2.5 点以下はすべて 0 であるため、表示を省略してある（以下、同様）。言語系の授業の評価点は 4.5 以上の授業が 67、言語以外の授業の 4.5 以上の授業は 38 と言語系の授業の評価点が高評価（評価点が高い）にシフトしていることがわかる。

図 3.3 は言語系の授業の評価点と回答者数（履修者からアンケート当日の授業欠席者数を除いたもの。以下同様。）の散布図と近似直線を、図 3.4 は言語以外の授業の授業評価点と回答者数の散布図と近似直線を示したものである。

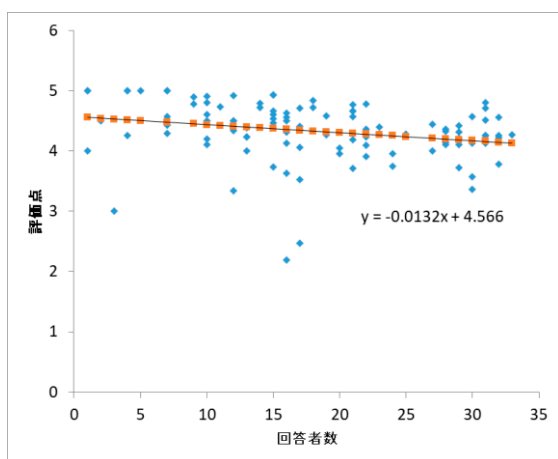


図 3.3 言語系授業の回答者数と評価点の散布図

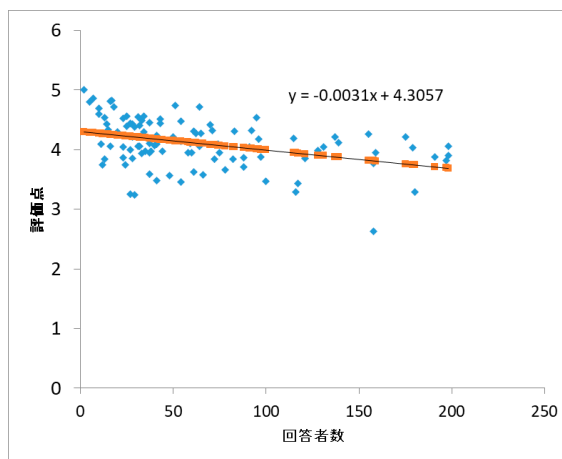


図 3.4 言語以外の授業の回答者数と評価点の散布図

言語系の授業で図では近似直線を引いてあるが、回答者数と評価点の間に相関があるとはいえない（ $\rho = 0.24$ 。 ρ は相関係数。以下同じ）。一方、言語以外の授業（大人数のクラスがある）では、回答者数と評価点の間にやや相関があるように見える（ $\rho = 0.39$ ）。

3. 2 情報系の演習科目の分析

情報系の演習（情報処理演習、専門演習等）は、履修者数が比較的少なく、また、学生が他の座学の授業に比して能動的に授業に参加することから、言語系の授業と類似している。そこで、言語と情報系の演習を除いたグループと、情報系の演習科目について分析を行う。

表 3.2 は、演習系の授業と、言語と演習系授業を除いたグループの属性を示している。演習の標本数は、言語と比べて少ない（19 標本）が、統計的に検討するには不足はないと考える。演習の評価点は言語に比べて低いが、言語と演習科目を除いた科目（座学）に比べて高いことがわかる。おそらく言語と同様に、履修学生数が小さいことによる影響であろうと考えられる。

表 3.2 演習と演習と言語系を除いた授業の属性比較

| 項目 | | 演習 | 除言・演 |
|-----|----|-------|-------|
| 標本数 | | 19 | 84 |
| 回答数 | 平均 | 31.32 | 71.56 |
| | 最大 | 66 | 198 |
| | 最小 | 7 | 2 |
| 評価点 | 平均 | 4.18 | 4.09 |
| | 最大 | 4.86 | 5 |
| | 最小 | 3.26 | 2.63 |

図 3.5 は演習系の授業の評価点のヒストグラムであるが、言語系に比べて低い方にシフトしており、かつ、4.5 以上の高い評価点が少なくなっていることが見て取れる。これは、言語系の評価点の平均が 4.32 であるのに対して演習系が 4.18 であることからわかる。

図 3.6 は、言語系と演習系の授業を除いた授業の評価点の分布を示している。演習系の授業の標本数が少ないため、言語系を除いただけの標本の分布（図 3.2）と類似している（全体への影響が小さいため）。ただし、図 3.6 は図 3.2 に比べ、ピークの位置（4.0 と 4.25）が異なっており、このため分布の形も少し異なっている。

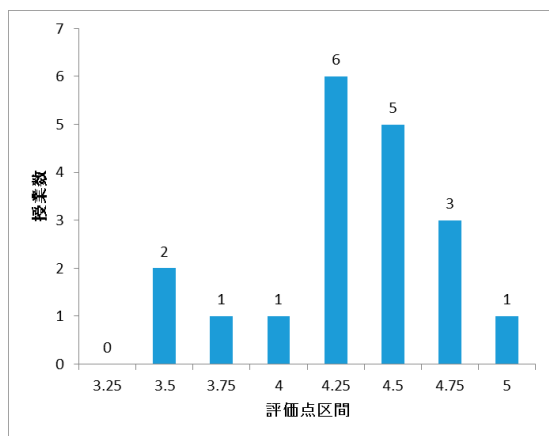


図 3.5 情報系演習授業の評価点の分布

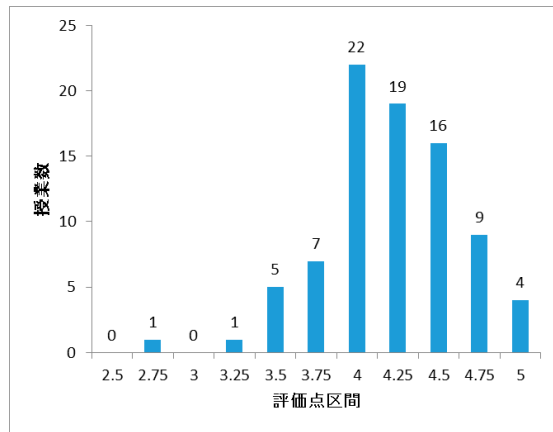


図 3.6 言語系と情報系演習授業を除いた授業の評価点の分布

図 3.7 は、演習系授業の回答者数と評価点の散布図である。演習系授業では、回答者数（ \propto 履修者数。 \propto は「～に近い」という意味で使う。以下同じ。）と評価点の間はかなり強

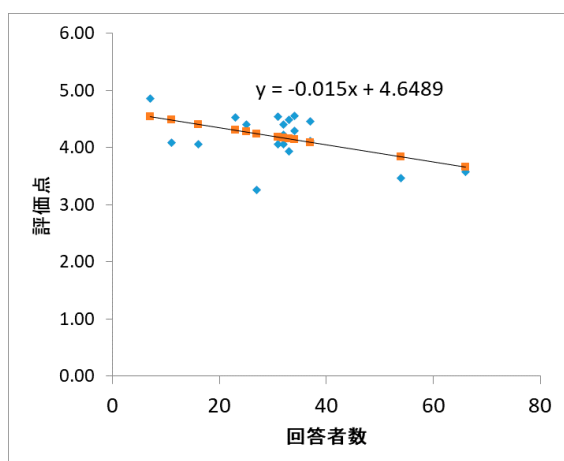


図 3.7 演習系授業の回答者数と評価点の散布図

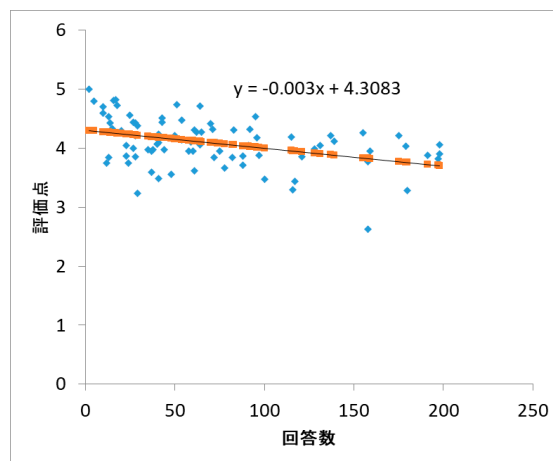


図 3.8 演習系及び言語系の授業を除いた授業の回答者数と評価点の散布図

い相関関係があり、回答者数の増加に伴う減少度合いも大きいことがわかる ($\rho = 0.49$ 、傾き $= -0.015$)。ただし、演習系授業の回答者数の最頻値 32 近辺では、評価点がかかなりばらばらについている。授業科目あるいは教員によって授業評価に差があることを示すと思われる。

図 3.8 は言語系と演習系の授業を除いたときの回答者数と評価点の散布図である。演習系の標本数 (19) が少ないため、基本的には言語を除いた場合の散布図 (図 3.4) と類似している (図 3.8 では、 $\rho = 0.40$ 、傾き $= -0.003$ 。図 3.4 では、 $\rho = 0.39$ 、傾き $= -0.0031$)。

表 3.3 回答者数 35 超の授業の属性

| 項目 | | 35超 |
|-----|----|------|
| 標本数 | | 63 |
| 回答数 | 平均 | 90.7 |
| | 最大 | 198 |
| | 最小 | 37 |
| 評価点 | 平均 | 4 |
| | 最大 | 4.75 |
| | 最小 | 2.63 |

3. 3 言語以外の履修者数の大きい授業の分析

言語系の授業の回答者数の最大が 33 であり、評価点分布が高い方にシフトしていると考えられるため、ここでは、言語を除き、回答者数が 35 以上の授業について分析を試みる。

表 3.3 は、回答者数が 35 を超える授業の標本数及び回答者数の平均、最大、最小と評価点の平均、最大、最小を示す。この授業には演習系の授業が 4 授業含まれているが、特に取り除きの処理をしていない。また、評価点の分布を図 3.9 に示す。

表 3.3 からこのグループでは評価点の最大値は 5 ではなく (4.75)、図 3.9 で評価点は区間 4 と 4.25 をピークとして左右に授業が分布している。このことから、このグループの評価点は比較的自然な分布をしていると考えられる。なお、今回の分析では、分布の

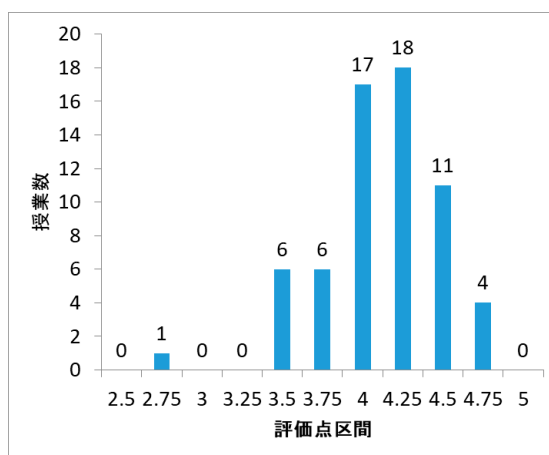


図 3.9 回答数 35 超の授業の評価点の分布

検定は行っていない。

図 3.10 は回答者数 35 超の授業の回答者数と評価点の散布図を示す。この図から回答者数（ \propto 履修数）と評価点の間に弱い負の相関（ $\rho = 0.26$ ）があることがわかる。相関が弱いのは、履修者数が 35 人～80 人程度のクラスで、評価点が 3.5～4.8 の間で広く分散しているためと考えられる。これは、35 人～80 人程度の中人数の授業でも評価点は直接履修者数に依存していないこと示していると考えられる。ただし、80 人より履修者数が多くなると、負の相関が顕著であるように見える。

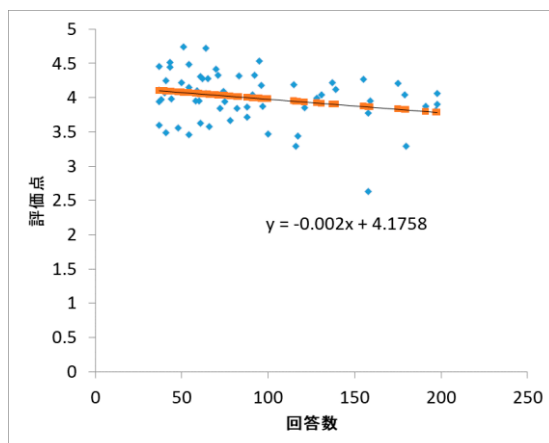


図 3.10 回答数 35 超の授業の回答者数と評価点の散布図

3. 4 言語以外の履修者数の小さい授業の分析

言語や演習などとの比較のため、言語と演習を除く比較的小規模の授業の授業評価を分析する。選択された授業の回答者数（ \propto 履修者数）は、3. 3 節と同じ理由から、35 を最大値とした。このグループの属性を表 3.4 に示す。この分類に属する授業は 25 クラスしかなく、他のグループと比較して少ない。評価点の最大は 5 であり、他の履修者数の少ない授業と同様である。評価点の平均は 4.30 であり、言語の 4.32 に極めて近い。

表 3.4 言語・演習を除く回答者数 35 以下の授業の属性

| 項目 | | 35以下 |
|-----|----|-------|
| 標本数 | | 25 |
| 回答数 | 平均 | 19.64 |
| | 最大 | 35 |
| | 最小 | 2 |
| 評価点 | 平均 | 4.3 |
| | 最大 | 5 |
| | 最小 | 3.24 |

図 3.11 は、このグループの評価点の分布である。区間 4.5 にピークがあるが、区間 4.25 を飛び越えた区間 4 にも同じ程度のピークがあり、他のグループとは分布が異なるように

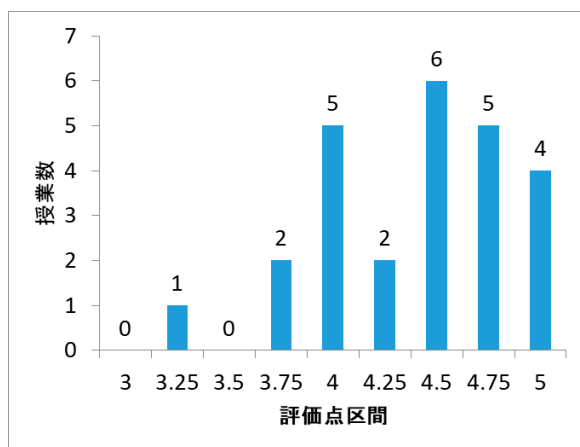


図 3.11 言語・演習を除く回答数 35 以下の授業の評価点の分布

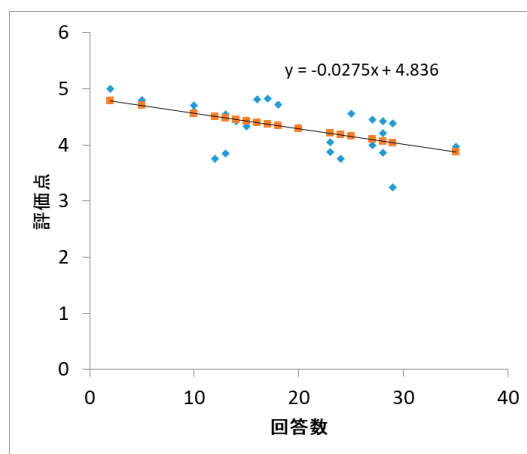


図 3.12 言語・演習を除く回答数 35 以下の授業の回答者数と評価点の散布図

見える。

図 3.12 は、このグループの回答者数と評価点の散布図である。他のグループと比較してこのグループの回答者数と評価点の関係は負の相関が強いことが見て取れる ($\rho = 0.54$)。また、傾斜も大きい (傾き ≈ -0.028)。

3. 4 言語系以外の平均点以下及び平均点を超える授業の分析

言語系授業を除いて、評価点の高い授業と低い授業の授業特性の違いを見るために、質問 10 の評価点が、全授業質問 10 の評価点の平均 4.11 を超えるグループとそれ以下のグループに分割した。本節では、この 2 つのグループの特性について検討する。

表 3.5 は、2 つのグループの属性を比較し

表 3.5 平均点を超える授業グループと平均点以下の授業グループの属性

| 項目 | | 平均点超 | 平均点以下 |
|-----|----|-------|-------|
| 標本数 | | 48 | 55 |
| 回答数 | 平均 | 50.83 | 76.82 |
| | 最大 | 175 | 198 |
| | 最小 | 2 | 11 |
| 評価点 | 平均 | 4.45 | 3.81 |
| | 最大 | 5 | 4.11 |
| | 最小 | 4.12 | 2.63 |

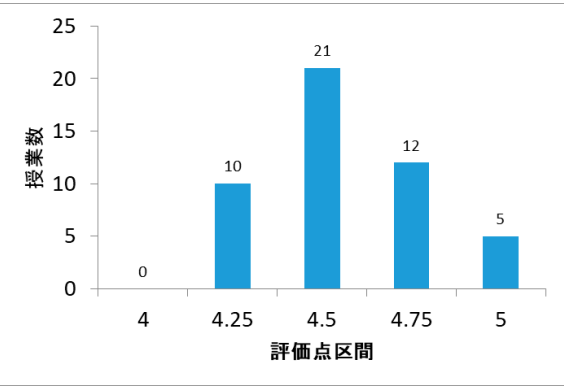


図 3.13 平均点を超える授業の評価点の分布

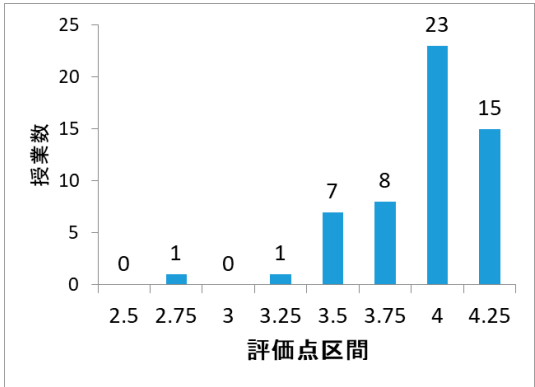


図 3.14 平均点以下の授業の評価点の分布

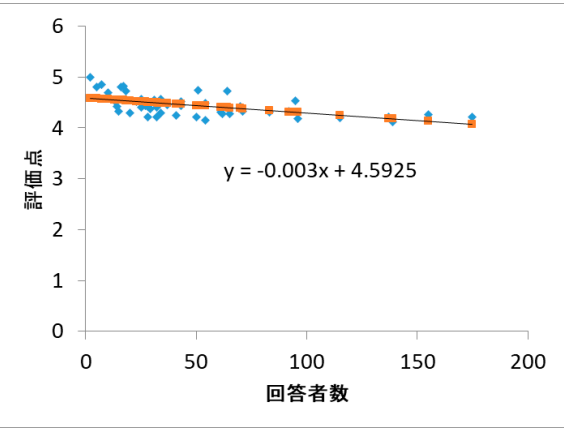


図 3.15 評価点が平均点を超える授業の回答者数と評価点の散布図

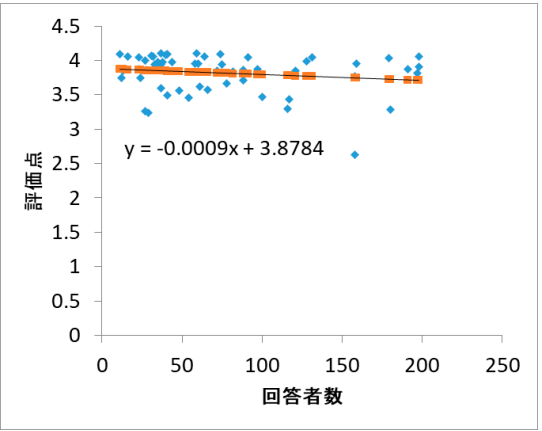


図 3.16 評価点が平均点以下の授業の回答者数と評価点の散布図

たものである。標本数は 48 と 55 とほぼ同数であるため、2 つのグループを直接比較することにより有意な結果が得られると考える。

評価点が平均以下のグループでは、平均的な回答者数及び最大回答者数が評価点の平均点を超えるグループより大きいことがわかる。

図 3.13 と図 3.14 は評価点の平均を超えるグループと評価点の平均点以下のグループの評価点分布である。前者では評価点区間 4.5 に、後者では同じく 4 にピークがある。

図 3.15 は評価点が全体の評価点の平均点を超える授業の回答者数と評価点の散布図であり、図 3.16 は、評価点が全体の評価点の平均点以下の授業の回答者数と評価点の散布である。両図からわかるように、評価点が高いグループが評価点のばらつきが少なく ($\rho = 0.57$)、評価点が低いグループの評価点はばらついている ($\rho = 0.16$)。この違いが何によるものかは、今回の分析では明らかにできなかった。今後、検討を深める必要がある。

4. 授業中の私語などの注意と質問 10 の評価点の関係

本論文を執筆中に、本学の教員から、「アンケートの項番 8 の質問『私語や遅刻、早退に対する教員の対処は納得のいくものでしたか』にきちんと対応すると総合評価（項番 10）が悪くなる。」という指摘があった。これが事実であれば、授業運営上、重要な知見であると考え、前記教員の意見が統計的にみてもそれを示しているかどうかを確認するために分析を行った。

2 つの質問間の回帰分析による分析結果を図 4.1 に示す。図で明らかのようにこの 2 つの質問の評価点の間は極めて高い ($\rho = 0.90$) 正の相関関係がある。したがって、私語などを適切に指導した授業の総合評価点は全体としては高いと言える。前記の教員の発言は当該教員の授業に特異的なものか、教員の思い違いであると考えられる。

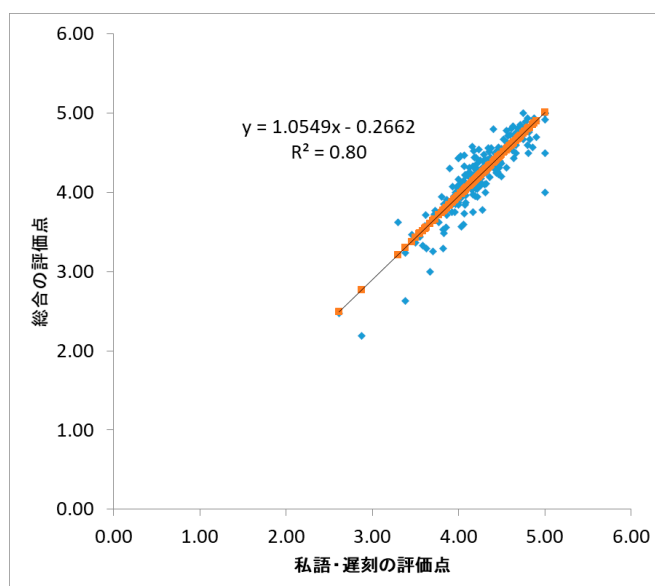


図 4.1 総合点の評価点が私語指導などが適切かを問う項目の評価点の散布図

5. 終わりに

学生による授業評価アンケートのうち総合評価の評価点を、以下の授業の属性に着目して分析した。

① 授業種類

② 授業の履修者数の多寡

③ 言語を除いた全授業の評価点の平均点を分界点として、平均点を超えるグループと平均点以下のグループ

この結果、以下のことが判明した。

(1) 言語の授業は他の授業とは異なる特性を示す

(2) 言語、回答者人数（ \propto 履修者人数）35 超の授業、全体平均点以下の授業を除き、回答者数が多くなると、評価点が低下する傾向がある。特に、全体評価点平均を超える授業は他に比べて回答者人数と評価点が強い相関を示す。

言語が他の授業とは異なる特性を示すのは、本学の言語の授業は CEP（Communicative English Program）と呼ぶネイティブスピーカによる少人数でコミュニケーションを重視する授業が多く、この授業では教師と学生の心理的な距離が近いことによると考える。

回答者人数（ \propto 履修者人数）35 超の授業、全体平均点以下の授業の評価点と回答者数の間の相関が低い理由は不明であり、今後の分析を待つ必要がある。

本学教員からの「アンケートの項番 8 の質問『私語や遅刻、早退に対する教員の対処は納得のいくものでしたか』にきちんと対応すると総合評価（項番 10）が悪くなる。」との指摘を受けて、項番 8 と項番 10 の回帰分析を行った結果、この 2 つには強い正の相関があり、全体的にみると指摘は正しくないことが判明した。授業中の私語や授業を聴く態度について適切に指導することは円滑な授業運営上重要であると考ええる。

以上、新潟国際情報大学で実施される学生による授業評価結果を授業属性によって分類し、分類ごとに分析を試みた結果を述べた。本分析により、一定の有益な知見を得られたと考える。今後は、全体評価だけでなく、個々のアンケート項目の評価点と全体評価の評価点、項目間の評価点の関係などを分析して、さらに知見を広げる必要があると考える。

参考文献

- [1] 西山 茂, “「学生による授業評価」結果の統計的分析による考察,” 新潟国際情報大学経営情報学部紀要, 2018 年 4 月.
- [2] 山下功, “授業評価アンケートシステムの費用対効果：新潟国際情報大学における導入事例,” 新潟国際情報大学紀要, 2011.
- [3] 新潟国際情報大学, “学生による授業評価アンケート,” [Online]. Available: http://www.nuis.ac.jp/pub/survey_2017kouki.html.